

報道機関各社 様

担当：札幌市消費生活課調査指導係 TEL 728-2111 FAX 728-2112

平成 30 年度 年末年始における生活関連商品の需給動向・価格見通しについて

札幌市では、生活に密着した食品や石油製品等の生活関連商品の価格の動向を的確に把握し、市民に情報提供するため、業界団体や事業者の協力を得て、年末年始における各商品の需給動向及び価格見通しに関する調査を行いましたので、その結果についてお知らせします。

記

1 協力を得た業界団体及び事業者

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| (1) 札幌みらい中央青果株式会社 | (5) (一社)北海道 LP ガス協会石狩支部 |
| (2) カネシメ高橋水産株式会社 | (6) ホクレン農業協同組合連合会 |
| (3) 札幌食肉卸業協会 | (7) 北海道製麺協同組合 |
| (4) 札幌地方石油業協同組合 | (8) 日糧製パン株式会社 |

2 調査時期

平成 30 年 12 月上旬

3 概要

(1) 青果物

調査対象の 18 品目中、台風や全国的な天候不順の影響により、葉物野菜、みかんなどが高値であった前年に比べ、今年は、安値 4 品目、やや安値 2 品目、前年並み 5 品目、やや高値 7 品目となっており、高値を見込む品目はない。

天候の影響で一部、品質面で劣るものや小玉傾向のものもあるが、全般的に収量が潤沢なため、価格の面では安値傾向となる見込み。

(2) 水産物

調査対象の 14 品目中、安値・やや安値の品目がなかった前年に比べて今年は、やや安値 4 品目、前年並み 2 品目、やや高値 6 品目、高値 2 品目となった。

鮭やいくら、ほたてについては、小ぶりではあるが前年よりもやや安値となる見込み。

(3) 畜産物

調査対象の 7 品目中、やや安値 3 品目、前年並み 2 品目、やや高値 2 品目となっており、高値を見込む品目はない。

今年は、牛肉が高く、鶏肉・豚肉は安値となる見込み。前年同様、輸入物については鶏肉を除き、他国(欧州諸国や中国)に買い負けている状況が続いている。また、調査対象品目ではないが、羊肉についても輸入各畜種と同様に買い負けしている状況で値上がりしている。

(4) その他食料品

長雨や天候不順等の影響により、全般的に高値傾向。特に、生そば、そば粉については高値を見込んでおり、安値を見込む品目はない。

(5) 石油製品

灯油をはじめ4品目すべてが前年並みを見込む。このところの原油価格の下落を受けて12月は価格が下がると思われるが、1月以降については、世界情勢等の影響により変動すると考えられるため、先読みは難しい状況である。なお、プロパンガスについては、現在の原油価格が販売価格に反映されるまでに2~3か月かかるため、タイムラグがある。

平成30年度 年末年始における生活関連商品の価格見通し 一覧表

	安値	やや安値	前年並み	やや高値	高値
青果物	だいこん はくさい ほうれん草 レタス	みかん きゃべつ	生しいたけ にんじん れんこん みつば 長ねぎ	ごぼう 里いも たけのこ(缶詰) ばれいしょ たまねぎ きゅうり さつまいも	
水産物		新巻さけ いくら 赤えび ほたて	飯寿司 いか	味付数の子 まぐろ はまち たこ こんぶ 板かまぼこ	たらばがに スモークサーモン
畜産物		国産豚肉 国産鶏肉 輸入鶏肉	輸入豚肉 ロースハム	国産牛肉 輸入牛肉	
その他 食料品		鶏卵	もち米 黒豆 パン	小麦粉 ラーメン	生そば そば粉
石油 製品			灯油 レギュラーガソ リン 軽油 プロパンガス		

※ 価格見通しの用語基準

- 前年並み = 前年同期比±5%未満
- やや安値・やや高値 = 前年同期比±5~15%未満
- 安値・高値 = 前年同期比±15%以上

平成30年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
青	だいこん	安値	千葉産主力の入荷。台風の影響で千葉に塩害が発生し作況が悪かったが、神奈川産の生育が順調で収量が潤沢なため、価格は前年よりも安値となる見込み。
	はくさい		茨城産中心の入荷。定植時に台風の影響があったが、年末時期には回復する見込み。価格は昨年よりは安い予想。
	ほうれん草		茨城産、群馬産中心の入荷。作付は平年並み。台風の影響で平年より入荷は少ないが、今後の天候次第で安定的に入荷できる見込み。
	レタス		結球レタスは静岡産、非結球レタスは茨城産主力の入荷。定植が少し遅れたが、年末の出荷には間に合う見通し。台風の影響はあったが、今後回復する見込み。茨城産の年末の出荷量は、昨年より増加。マルチ作による雨対策も行っている。
果	みかん	やや安値	和歌山産主力で佐賀、愛媛、広島産の入荷。 和歌山産：作況は早生、中生、晩生通して昨年対比110%の入荷見込み。玉流れはM中心でL、S等量の見込み。夏場の高温多雨の影響で酸抜けが早く、2級品、スレ果の出荷が多くなる見込み。 愛媛産：宮川早生は数量で昨年の125%、南柑は113%の入荷見込みだが、昨年の入荷量が少なかったため、平年並み。玉流れはM>L=S。9月～10月の台風の影響で、2級果が昨年よりやや多い見込み。
	きゃべつ		主産地である愛知県が台風による塩害を受けており、生育状況は良くない。道内産雪の下キャベツについては、生育期の天候が悪かったため、小玉傾向で出荷量は少ない見込み。
物	生しいたけ	前年並み	胆振、石狩、根室地方を中心に全道からの入荷。作付は昨年並み。各産地の大所は年末に向けて発生作業を行うが、温度に大きく左右される作物であるため、気温次第で出荷時期がずれ込む可能性がある。入荷量、価格は昨年並みの見込み。
	にんじん		千葉、茨城産中心の入荷。本年は台風、塩害等の影響で細物比率が高まり、出荷数量の減少が見込まれる。価格は高値であった昨年並みの見込み。
	れんこん		茨城産主力の入荷。作付は昨年並み。台風の影響で、傷みによる品質低下の懸念がある。

平成30年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
青	みつば	前年並み	軟白みつばは渡島産主力の入荷。作付は減少しているものの作況は順調で、昨年並みの入荷見込。
	長ねぎ		埼玉産、茨城産中心の入荷。台風の影響で倒伏してしまった産地もあるが、昨年並みの入荷を見込む。ただし、年末年始は需要が高まるため、高値基調の推移を予想。
果 物	ごぼう	やや高値	道内産（十勝産）中心の入荷。8月、9月の天候不順の影響で細物傾向。太物が品薄になっており、高値基調の見込み。
	里いも		千葉、宮崎、埼玉産中心の入荷。各産地とも天候不順の影響を受け、やや減収の予想。地域によっては、病気を発生している産地もあり、価格はやや高値になると予想する。
	たけのこ （缶詰）		中国産主力の入荷。不作のため、既に値上がりしている商品もある。国産は福岡県、鹿児島県産中心の入荷。作況、入荷量ともに例年並み。
	ばれいしょ		道内産（後志、十勝産）中心の入荷。貯蔵での出荷となるが、生育期の天候不順で小玉傾向。玉付きも昨年より良くないため、出荷はやや減少の見込み。
	たまねぎ		道内産の販売。上川、石狩、空知、十勝地方が小玉傾向での収穫となり、道内全体として収量が少ないため、昨年と比べてやや高値になる見込み。
	きゅうり		台風24号の影響があり、作付面積は減少。回復傾向ではあるが、需要と供給のバランスによっては高値基調の価格になる見込み。
	さつまいも		茨城産中心の入荷。正品率が低く小玉傾向のため、入荷量は減少し価格もやや高値になる見込み。

平成30年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
水	新巻さけ	やや安値	北海道の秋鮭水揚げ量は、10月15日現在、昨年対比105%で昨年並みの不漁が続いているが、価格は昨年より下落し買いやすい状況である。
	いくら		北海道の秋鮭の水揚げはほぼ昨年並みだが、価格については昨年より安値になっている。また、ロシアの漁も豊漁のため、ロシア産マスイクラについても昨年よりは安値になる見込み。
	赤えび		アルゼンチン産赤えびは産地豊漁で昨年に続き安値。順調な消費が見込まれる。ロシア産南蛮えびは相場下落により2年ぶりの安値も、消費者離れによりさらに下落予想。
	ほたて		玉冷は安値スタートを切ったが、供給が追いつかず夏場から急騰。ボイルホタテは前年より増産。安値、順調な売れ行き。
産	飯寿司	前年並み	ホッケは昨年より安値。にしん、ハタハタは昨年並み。紅鮭は高値。
	いか		前年同様、太平洋の水揚げがなく日本海中心の水揚げ。前半は日本海が順調であったが、後半は水揚げがなく高値で推移している傾向にある。
物	味付数の子	やや高値	北海道産は昨年より300円～500円/kg程度安値になるが、その他の地域は軒並み漁獲減のため、200円～500円/kg程度値上げになる。
	まぐろ		道内の小型魚の規制の問題もあり、なかなか安値にもならず前半は苦しんだ。後半は養殖物が中心になってくるが、台風の影響もあり値段は上がる見込み。
	はまち		昨年が尾数の少ない影響により2年魚の出荷が早まり、今年いっぱい高値が続く予想。
	たこ		シーズン前半、アフリカ蛸の不漁が伝えられ高値で推移した結果、消費が鈍化し、年末に向け相場は横ばい又は若干下げ傾向。
	こんぶ		生産量は昨年より多いと予想されているが、加工用としての引き合いが強く、入札価格が高くなっている。
	板かまぼこ		主原料である魚肉すり身が高値で推移しており、5%程度の値上がり予想。
	たらばがに	高値	中国の活需要の増加、ロシア側の蟹の漁獲枠のオークションなどの要因により、昨年より高値でスタート。今後高値が続く気配。日本国内の消費は高値離れで鈍化。
	スモークサーモン		紅サケ（ロシア、アメリカ）原料高騰のため、価格は昨年より3割アップの商品もある。

平成30年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
畜	国産豚肉	やや安値	関東の出荷頭数増で相場は前年に比べて下落している。相場下落によって、特売が増えることで荷動きは堅調である。年末は例年どおり、相場上昇の見込み。
	国産鶏肉		全国的に増羽傾向にあるため、不足していた前年に比べ相場安となっており、今後も続くと予想される。しかし、9月の震災により北海道産鶏肉は一部の商品で不足が生じている。
	輸入鶏肉		相場安の中、国内在庫、出回り量が昨年並みで推移しているため、価格帯は安値となっている。現地からの船積み量も増えているため、先の案内も比較的安い価格帯となっている。
産	輸入豚肉	前年並み	チルドに関しては、動きも落ち着いてきている。冷凍に関しては、デンマーク産はないが、他の産地もあることから急激に価格が上がることはない。
	ロースハム		特に販売の動きは昨年と同様変わらずである。主に量販店がメインとなるが、今後の価格動向は資材費の値上げなどが関わってくるものと思われる。
物	国産牛肉	やや高値	ホルスの頭数が少なく、和牛、交雑牛とも高い枝相場となっている。年末の需要も増えてきているため、さらに枝価格が上昇していくと思われる。
	輸入牛肉		現地生体価格が上がっているため、仕入価格も上昇していることから価格帯は昨年比べて高値となっている。特にバラ、ロース系の引き合いが強く、年末に向けて価格が上昇している。

平成30年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
その他 の 食 料 品	鶏卵	やや安値	今年度のヒナ餌付羽数は前年並みと予想されるものの、稼働羽数は依然として過剰であり、堅調な消費を上回る生産量が見込まれることから、相場は前年よりやや安値で推移する見通し。
	もち米	前年並み	北海道もち米は作柄低下による供給量の減少が見込まれるものの、大手需要者を中心に契約栽培（複数年契約）による安定的な取引を行っていることから、末端価格は前年と比較して大幅な変動はないものと見込まれる。
	黒豆		平成30年産の作付面積は昨年より増加したものの、天候不順等の影響により反収は平年を下回る見込み。全体の需給バランスにより、価格は前年並みとなる見通し。まだ出回り数量が少ないため、今後の動向によっては価格にブレが発生する可能性もある。
	パン		小麦粉価格が上昇したほか、人件費やエネルギー価格の上昇もあり、厳しい経営環境が続いているが、消費者の節約志向が根強く前年並みの見込み。
	小麦粉	やや高値	政府の小麦売渡価格が今年4月及び10月に引き上げられ、小麦粉価格は6月から前年を上回って推移している。来年1月からはさらに値上がりする見通し。
	ラーメン		国産、外物問わず、小麦、包材、ダンボール、全て値上がり。
	生そば	高値	北海道産物については、前年の4割前後。長雨のため、幌加内方面については2割の見込み。
	そば粉		同上

平成30年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
石 油 製 品	灯油	前年並み	米国のイラン制裁再開発表から原油価格が上昇を続けてきたが、日本を含む8か国が適用除外を受け価格は下落傾向。加えて、サウジアラビアのジャーナリスト殺害問題で需給動向がタイトになることはないと思われる。
	レギュラーガソリン		同上
	軽油		同上
	プロパンガス		輸入価格は11月に降下したものの、イラン・サウジアラビアの中東問題などで、先の見えない状況下にあるが、現状は前年並みで推移すると推測される。供給量は確保されている。